

「川崎市総合計画有識者会議」の設置等について

「新たな総合計画」については、策定作業方針（H26.4公表）及び策定方針（H26.8公表）に基づき、策定作業を進めてきたところですが、このたび「川崎市総合計画有識者会議」を新たに設置いたしますので、その概要と今後の進め方等をお知らせするものです。

（配布資料）

資料1・・・「川崎市総合計画有識者会議」について

資料2・・・有識者会議・市民検討会議の流れ（案）

資料3・・・川崎市総合計画市民検討会議 第1回全体会 開催概要

資料4・・・かわさきの未来を考える市民フォーラム

参考1・・・新たな総合計画及び行財政に関する計画の策定に向けたスケジュール（案）

参考2・・・新たな総合計画策定方針

参考3・・・新たな総合計画策定方針【参考資料編】

【問合せ】

川崎市総合企画局都市経営部企画調整課 久方^{くま}

電 話：044-200-2025（内 23201）

ファックス：044-200-3798

川崎市総合計画有識者会議について

これからの川崎の目指すべき方向性や今後の取組を明らかにする新たな総合計画の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」をスタートします。

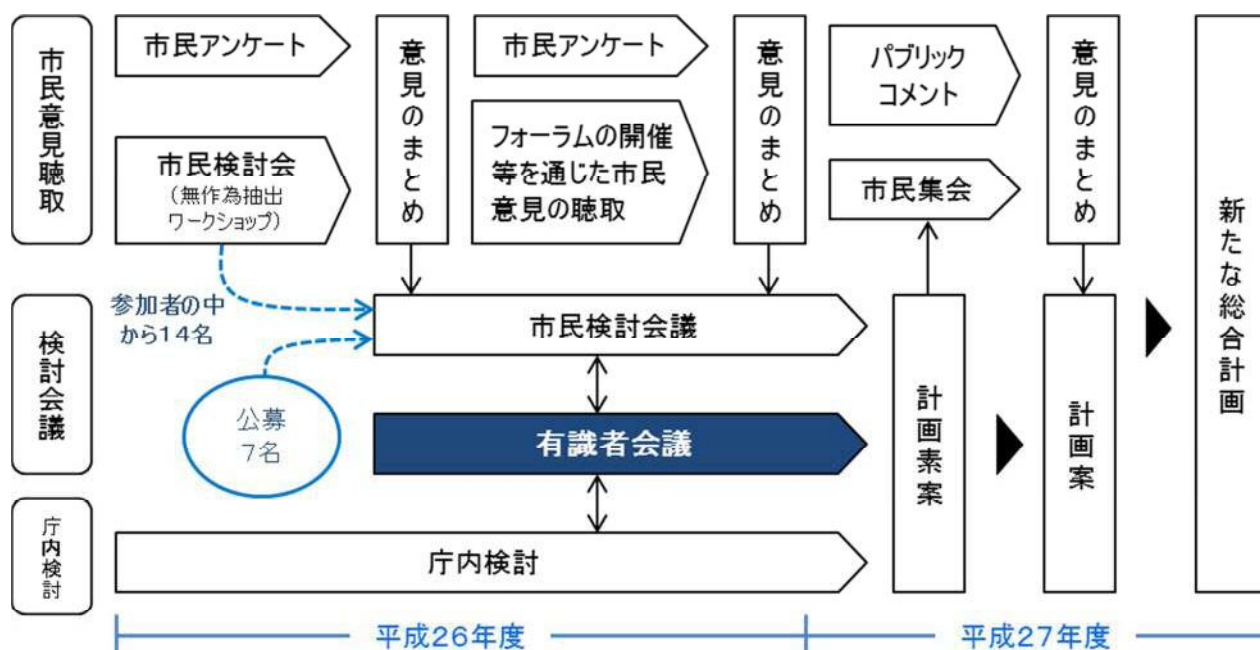
1 会議の位置づけ

新たな総合計画は平成26・27年度の2年間をかけて策定します。新たな総合計画の企画及び立案については、市長を本部長とする総合計画策定推進本部で進めていきますが、専門的な立場からの意見や助言をいただく場として、学識経験者6名で構成する有識者会議を開催していきます。有識者会議は、それぞれの政策分野（例：「社会福祉」「子育て・教育」「まちづくり」など）の重点検討テーマを中心に検討を行います。

また、総合計画策定に向けた新たなアイディア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催していきます。（テーマの例：「医療と介護の連携による地域包括ケアシステムの構築」「これからの社会デザイン」「都市拠点・交通体系のあり方」など）

あわせて、市民の声を幅広く集めるための取組として、「市民検討会議」を開催していきます。「市民検討会議」では、既に実施している市民アンケートや無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」での意見をもとにして、主な政策分野ごとに議論を深めます。部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、有識者会議と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。

【新たな総合計画策定までの流れ】



2 委員名簿

(五十音順)

氏名(敬称略)	分 野	役 職 等
あきやま みき 秋山 美紀	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学環境情報学部准教授
いずいしみのる 出石 稔	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学副学長・法学部教授
かきうち えみこ 垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学政策研究科教授
なかい のりひろ 中井 検裕	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授
ひらお こうじ 平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学学事顧問
わくい しろう 涌井 史郎	ランドスケープ・環境	東京都市大学環境学部教授

3 開催予定

(1) 第1回「川崎市総合計画有識者会議」の開催について

① 日 時

・平成26年10月27日(月) 16:00～18:00

② 場 所

・第4庁舎4階第3会議室

③ 主な内容

- ・座長、副座長の選任
- ・新たな総合計画の策定方針、スケジュールについて
- ・「川崎の未来を考える市民検討会」の開催結果及び

「市民検討会議」について

- ・全国的な動向及び市の概況について

④ その他

・傍聴については先着順で10名

(2) 第1回「ラウンドテーブル」の開催について

① 日 時

・平成26年10月29日(水) 18:00～20:00

② 場 所

・第4庁舎4階第3会議室

③ 主な内容

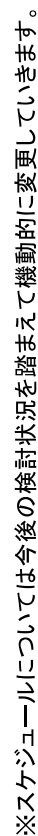
- ・2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築について

④ その他

- ・ゲストアドバイザー…田中 滋 慶應義塾大学名誉教授
- ・有識者会議委員、ゲストアドバイザーの他に、医療・福祉関係者もお招きして超高齢社会を見据えて誰もが地域で安心して暮らせる地域づくりについて検討します。
- ・傍聴については先着順で10名

(3) その後の予定(資料2参照)

- ・平成27年度まで、ラウンドテーブルを含め計10回程度の開催を予定



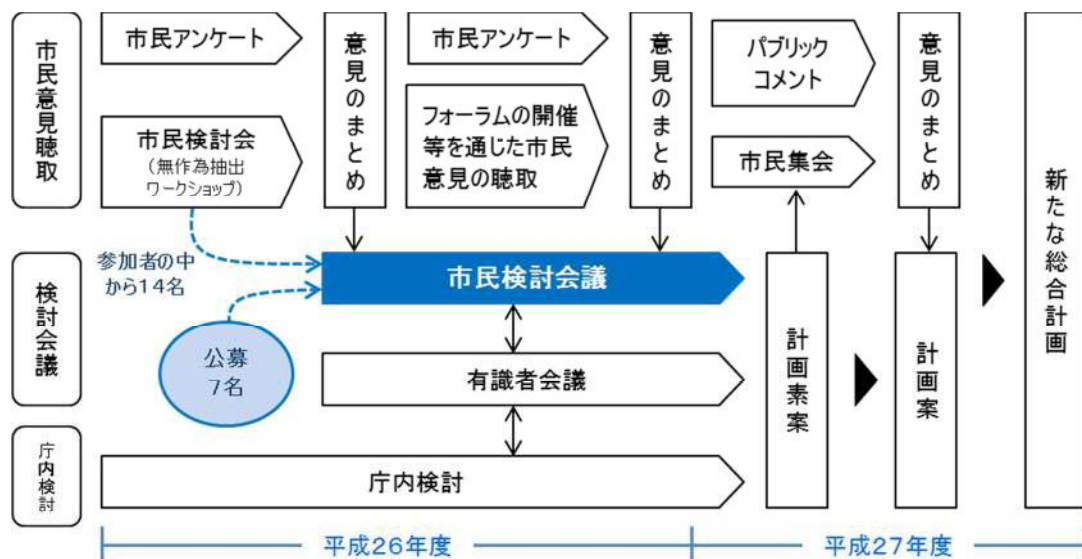
川崎市総合計画市民検討会議 第 1 回全体会 開催概要

日時:平成 26 年 10 月 4 日(土)9:30~12:15

会場:川崎市役所 第 4 庁舎 第 6・7 会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. 今後の開催予定について

- 平成27年度までに、部会も含め、10回程度を開催予定

3. 会議の構成について

- 会議は下記のとおり、市民21名とコーディネーター(学識経験者)1名の計22名で構成されています。

公募市民	・・・7名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	・・・14名
コーディネーター(中央大学法学部教授・川崎市在住 礒崎初仁氏)	・・・1名

※20代~70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名
(コーディネーターを除く)

4. 第1回全体会の開催概要について

(1) コーディネーターあいさつ

- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の礒崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
 - 人口減少や厳しい財政状況など、困難な時代だからこそ、限られた財源や人材をどううまく使うか、知恵を絞って総合計画を作り、市役所と市民が共有することが必要
 - まちづくりは市民が主役なので、市民参加で検討することはたいへん重要な意味合いを持つ



コーディネーターの
礒崎初仁中央大学教授

(2) 市長あいさつ

- 市長からは、以下のような挨拶がありました。
 - 各区で行われた『川崎の未来を考える市民検討会』に出てみると、子育て世代、シニア世代など、世代を越えてつながろうという意識が高いことが共通して感じられた。
 - 今後、財政状況が厳しくなる中で、多世代で結び付きあって、地域の工夫で住みよいまちをつくっていくことが重要となる。
 - 本日は、市民が自らその第一歩を踏み出そうという取組であり、ぜひ活発な意見交換をお願いしたい。



福田市長からのあいさつ

(3) グループディスカッション

- 3つのグループに分かれて、「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」「新たな飛躍に向けたチャンス」をテーマに、グループディスカッションを行いました。



①各自のアイデアを付箋に記入



②みんなのアイデアを共有化



③共感できる意見に投票

(4) 成果の発表、コーディネーターまとめ

- 各グループから成果発表を行った後、最後に、コーディネーターの礒崎教授から、話し合いの内容を3つのキーワードで総括していただきました。
 - 「交流・コミュニケーション」・新旧住民の対話や北部と南部の交流、さらには企業と地域との連携が必要。
 - 「世代」・高齢者と若い世代・子どもなど、多世代の交流が大切という話が多かった。また、高齢者の中にもさまざまな高齢者がいるので、高齢者とひとくくりにせず、細分化して考えていく必要がある。
 - 「PR・イメージ」・海外にも通用する川崎らしさを確立し、行政からだけでなく、市民からも伝えていくことも大事と感じた。



グループのまとめ

→ 次回からは部会に分かれて、分野を特定し、テーマを絞って、具体的な話し合いを進めていきます。

グループディスカッションにおける意見まとめの概要

- グループディスカッションでは、各グループで「今後の議論をするうえで大切にしたいポイント」について、それぞれまとめを行いました。
- ここでは、各グループの意見を、コーディネーターから示された3つの共通のキーワードに沿って分類し、それらに該当しない意見をさらに3つに分類して整理してあります。

① 交流・コミュニケーション

コミュニティのつながりを → そのためのコミュニケーションの機会を!! 3G

市の取り組みについて、もっと情報発信やPRが必要
民(民間企業・市民活動)の取組も、お互いに知り合う必要がある。

地域のつながりづくり 3G

新旧住民、南部と北部のコミュニケーションの機会を増やす。
公園などの緑・環境資源を生かす。それが地域のつながりづくりに
もつながる。
防災への備えを逆にチャンスととらえ、まちづくりに生かす。

ハイテク企業と地域のつながりをつくる(“シリコンバレー”) 2G

川崎にはシリコンバレーに匹敵するハイテク企業が集積している
が、企業には川崎に在るという意識がない。一方、地域の側、市民
の側にも、企業に対する意識がない。双方の「地場意識」の涵養が
重要。
子どもにおける地元のハイテク企業への理解が深まれば、子ども
の学力向上につながることも期待できる。さらに郷土愛の醸成、ひ
いては定住促進につながる、税収増にもつながる。

② 世代

場づくり・機会づくりによる多世代交流 1G

高齢者と子供の交流による子育て環境充実と高齢者の生きがい
づくり
空き施設を活用した交流の場となる空間の確保

子育てから、世代間交流で、高齢者と子どもをつなぐ 2G

「子育てと防災の拠点」などの「場づくり」
→ ソフト/ハードにわたる多機能化
福祉にもつながる。
高齢者と子どもをつなぐことには、財政的な効果もある。

「市民」「川崎」をひとくりにせず、状況に応じた取組を!! 3G

インフラ整備も違いへの配慮が必要(南北の差、地勢や地理、人
口構成の異なり)
高齢者には、「支援が必要な高齢者」と、「活躍の場」が必要な元
気な高齢者が存在する。対象を細分化して施策を考える必要があ
るのでは？

③ PR・イメージ、発信

イメージアップと川崎らしさのPR 1G

かわさき及び「かわさき人」のイメージアップ
川崎の特徴のPR

「立地」への着目 → 他都市と連携しながら川崎らしさを! 3G

東京と横浜に挟まれている環境で、外から見ると「川崎らしさ」や
「個性」が埋没しがち。
『川崎らしさ』を市民が誇れるように「シンボル」となるものをつ
くる必要があるのでは？
『公害のまち川崎』に代わるキャッチフレーズをつくり、浸透させる
機会にしたい

自然発生的なPRで、広がる・伝わる 2G

上記の「場づくり」のような、市民の中で自然に生まれたものをPR
する。(無理なPRはしない)
こうした市民主体のPRに対して、行政のPRをミックスして、相乗効
果を発揮。

災害時の情報の伝達 1G

情報提供による自助、共助の促進
防災への備え

④ 資源(人材、地域資源等)の活用

市内の人材の活用 1G

子育て支援など、元気な高齢者を増やし、活用する
市内在住のプロ人材など地域の人材を有効活用する

市内の人材や学校などを活用する 2G

色々なスキル・知識を持つ市内人材(シニア含む)を活用する。
イベントなどで、大学・高校・小中学校と連携する。

河川敷を活用して、川崎の魅力を発信する 2G

河川敷を生かしてイベント等を開催する。行政は、河川敷を整備し、
場の提供を。
仮設テントなどを使えばお金をかけずにできる。工夫すれば、市民
や企業からお金を出してもらうこともできる。
東京オリンピックが始まれば、都内には落ち着ける場所はなくなる。
人ごみに疲れた人にとって、川崎の緑や音楽は大きな魅力になる。
それらを生かしたイベントを開催し、PRすべき。

資源(芸術・スポーツ・自然)のネットワーク化による活用 1G

プロチーム(フロンターレ)や施設などスポーツ資源の活用
ミュージアムの一層の活用
自然環境の保全と活用
上記のような点に在る資源(大学や企業を含む)のネットワーク化
による有効活用

遊休資源がある!! 3G

民間企業が有している遊休の土地建物の活用を促す必要がある
のでは？
市の資産も十分活用されていない。(文化施設など)
遊休資源には、土地、建物だけではなく、人材も含まれているので
は？大学や企業人材の活用が必要。

オリンピック・パラリンピックの活用 1G

オリンピック・パラリンピックのインバウンドを活用した観光振興
障害者の地域参加

⑤ 生活環境

すべての世代が安心できる医療 1G

老後の不安がなく、一人暮らしでも安心できる環境の確保

交通利便性の強化と地域間連携等への活用 1G

広域交通利便性の強化、活用と地域連携の促進
道路網整備や公共交通機関の活用など地域交通の充実

子どもが安心して遊べる環境と充実した教育環境の提供 1G

学校以外に子供が外で安心して遊べる環境の整備
充実した教育環境

⑥ 実行性

どこまでだったらできる? → 財政状況は? 本当にできるの? 3G

議論をする際に、あれもこれもではなく、現実性のある提案にした
い。そのためには財政状況にも配慮が必要なのでは？

具体的なアクションを考えたい!! 3G

かわさきの 未来を考える 市民フォーラム

新たな総合計画づくり

見て!

話して!

感じて!

みんなで
考えよう!

かわさきの
未来

日時

平成26年

11月8日(土)

開場/12:00

[大ホール]13:00~15:30 [展示等]12:00~17:00

場所

高津市民館 (ノクティ2 12階)

大ホール (NOCTYホール) 及び各会議室等

JR南武線武蔵溝ノ口駅北口・

東急田園都市線、大井町線溝ノ口駅東口 徒歩2分

主催/川崎市

お問い合わせ先/総合企画局都市経営部企画調整課

電話:044-200-2166 FAX:044-200-0401

<http://www.city.kawasaki.jp>

かわさきの未来を考える市民フォーラム

クリック!

検索

入場無料

今、川崎市では、かわさきの未来への道しるべとなる「新たな総合計画」づくりを進めるにあたり、かわさきの未来を考えるシンポジウムの開催や、今後、かわさきの未来を彩る優れた川崎らしい魅力ある取組をご紹介します。ふるってご参加ください。



KAWASAKI CITY
川崎市

かわさきの未来を考える シンポジウム（大ホール）

かわさきの未来の道しるべとなる「新たな総合計画」について福田市長から説明します。また、超高齢社会を見据えた地域づくりをテーマに地域包括ケアシステムの第一人者である田中滋先生による基調講演、様々な分野の有識者によるパネルディスカッションを開催します。

13:00 **開会**

13:05~
13:20 **市長挨拶**
「新たな総合計画について」

13:20~
14:00 **基調講演**
「超高齢社会を見据えた地域づくり」

（講演者）田中 滋（たなか しげる）
慶應義塾大学名誉教授

パネルディスカッション

〈コーディネーター〉

14:10~
15:30 田中 滋（たなか しげる） 慶應義塾大学名誉教授

〈パネリスト〉

磯崎 初仁（いそざき はつひと） 中央大学法学部教授 園田 真理子（そのだ まりこ） 明治大学理工学部建築学科教授
平尾 光司（ひらお こうじ） 昭和女子大学学事顧問 福田 紀彦（ふくだ のりひこ） 川崎市長（五十音順）



福田 紀彦
（ふくだ のりひこ）
川崎市長



田中 滋
（たなか しげる）
慶應義塾大学名誉教授
「医療介護総合確保促進会議」議長
社会保障審議会委員
「地域包括ケア研究会」座長

※当日先着600名様までのご入場となります。手話通訳または要約筆記ご希望の方は平成26年10月27日(月)までにFAX又はメールでお申し込みください。FAX:044-200-0401 e-mail:20kityo@city.kawasaki.jp

展示コーナー 12:00~17:00

川崎市制90年のあゆみを写真と映像で紹介するほか、殿町キングスカイフロントなどで取組まれる最先端の研究など川崎市の特色ある優れた取組の紹介や、市民が主体となって取り組む地域活動、更にはこれまで市民からいただいた総合計画に関する意見の紹介など、幅広く市民の方々に総合計画に関わる取組についてパネル展示等を行います。

見て!

かわさきの未来に 向けた皆さんの御意見

これまでに市民の皆さんからいただいた総合計画に関するご意見を紹介します。

話して!

川崎市制90年のあゆみ

魅力ある都市へと大きく発展を遂げた川崎市の90年を映像と写真で紹介します。

話して!

一步先へ もっと先へ

- ・高い技術力に支えられた川崎のものづくり
- ・川崎のすぐれた先端技術
- ・スポーツ、音楽、文化など魅力的な資源

〈協力企業〉

味の素株式会社

アミノインテックス：
アミノ酸を測る。今のからだを知る。

川崎信用金庫

地域に根ざした社会貢献活動などの紹介

大和ハウス工業株式会社

介護セラピー用ロボットや
自動排泄処理ロボットの紹介

富士通株式会社

ビッグデータによる川崎市のイメージ分析

感じて!

見て!

未来を担うこどもたち の作品の紹介

橘、蟹ヶ谷、諏訪、野川、西高津、津田山、上作延、梶ヶ谷保育園の作品を展示します。

見て!



感じて!

見て!

地域における 市民活動をご紹介

作って遊ぼう
ペットボトルのふたで作る
コマで遊ぼう

話して!

公園体操 (12:30~)
公園体操と一緒に健康になろう!
ルー大柴さんも参加します。

感じて!



ルー大柴さん
タレント

かわさきスタンプラリー

会場内を回ってスタンプを集めた方に、藤子・F・不二雄ミュージアムのクリアフォルダと川崎市のキャラクターマグネットをプレゼント

※プレゼントはなくなり次第終了となります。



シンポジウムに参加し、
アンケートにお答えいただくと
季節の野菜(かわさきそだち)と
藤子・F・不二雄ミュージアム
のクリアフォルダを
プレゼント!



写真はイメージです。
※当日配布する野菜とは異なります。

かわさきの未来を考える市民プラットフォーム